

仙台藩の御座船建造

—新出の御船大工棟梁中村文書の紹介

■講師: 斎藤善之
さいとう よしゆき

2025年12月20日(土) 14:30~16:30

■会場: 駒場ファカルティハウス セミナー室

京王井の頭線「駒場東大前」駅下車 東京大学駒場キャンパス内

場所は東大正門の警備員にお聞きください

電話 03-5454-4481 (ファカルティハウス管理室)

対面開催!

非会員の方もお申込なしでご参加いただけます
当日直接会場にお越しください

江戸時代初期、伊達政宗は、播州明石出身の中庄村右衛門なる人物を御船大工棟梁として召し抱え、石巻において御座船の建造に従事させました。これによって仙台藩は東日本では珍しく御座船を保有する藩となり、その御座船は松島に置かれて歴代藩主らの松島湾での遊覧などに使用されました。

こうして中村氏は、御座船のみならず御穀船(商船)建造も指導することで仙台藩の造船技術の引き上げに大きく寄与し、その後も近世を通じて石巻で藩の造船に深く関わっていましたが、明治維新後は当地を離れました。

その後、2010年8月になって、さいたま市在住の中村家の御子孫から200点ほどの古文書が石巻市に寄贈され、現在は石巻市博物館に所蔵されています。石巻市博物館ではその文書を使って市民向け古文書講座を開講することとし、斎藤はその講師として市民とともに解説にあたっています。そこからは、これまで知られていなかった仙台藩の御座船や御穀船に係わる歴史的事実が多数よみがえってきたのです。

今回の報告は、この中村文書の内容を学会で報告する初めての機会となります。仙台藩の御座船建造の知られざる歴史を紹介したいと考えております。

■斎藤 善之(さいとう よしゆき) 日本海事史学会会員

1958年栃木県生まれ。早稲田大学大学院日本史専攻博士課程単位取得退学。
文学博士。専門は近世後期から近代初期の海運勢力と港湾都市の研究。

例会後、近くの居酒屋で忘年会を開催します!

懇親会 17:30 ~ (例会終了後)

■宮崎郷土料理「ひしゅうや」

京王井の頭線「神泉」駅から徒歩1分

TEL: 03-3463-0075
渋谷区円山町18-2 藤田ハイツ1F

事前申込制 申込締切 12月16日(火) 23:59

会場予約の都合上、懇親会は事前の申込みをお願いいたします。
懇親会費はワリカンです。非会員もご参加いただけます。

こちらのQRコードからお申込みください



日本海事史学会は、海事一般に関する歴史・法律・民俗・水産・考古・船舶・航海・海運など、海事史だけにとどまらず、ひろく海の人文学、社会科学等あらゆる分野に関心を持つ学界や在野の研究者の方々の交流をはかる総合研究の“場”です。

【主な活動】専門学術誌『海事史研究』の発行(年1回) / 総会(年1回)・例会(8月と総会開催月を除く年10回)など

